

## 気候危機対応研究イニシアティブ

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状についての評価・質問など	<p>本件、分野横断的に取り組まれており、また推進計画も立てることができており素晴らしい。若手による自由討論の場というようなものは、大学においても実施しなければならないと認識している。</p>	<p>評価いただきありがたい。これからも期待に添えるよう取り組んでいく。若手研究者による自由討論の機会については、また報告させていただきたい。</p>
	<p>プログラム間連携を円滑かつ効率的に行うための大変重要な組織であり、1 + 1 = 2 以上の効果が期待できる。数々の取り組みによる連携の強化だけでなく、科研費申請アドバイスなど大変良い活動を行っている。</p>	<p>これからもご期待に添えるよう取り組んでいく。 外部資金研究課題の俯瞰図については、年次更新を継続するとともに、その使い方についても事例と経験を積み重ねたい。</p>
今後への期待など	<p>研究の連携促進は大変重要であり、このような形でまとめることは大きな意義がある。また、若手中堅による提案も、よい取り組みと考えられ、広い分野を網羅した先端的な研究を行う研究所だからこそその取り組みである。金融界とのワークショップなどのように活かすのか注目される。その他、環境に関わる多くの企業と連携していただくのもよいだろう。</p>	<p>今期初年度に行った金融界とのワークショップについては報告書を作成、公表し、国際会議にもインプットした。その報告書を読んだ外部金融関係者とディスカッションに繋がったケースもある。引き続き対話の場を確保しつつ、将来の方向性の検討を継続したい。他の業界企業との連携については、本年度作成の企業連携リストも活用し、効果的な連携の模索を引き続き検討する。</p>
	<p>人の健康政策に密接につながる領域であり、国環研の総合的な力を発揮し進めていただきたい。分野横断的な研究・情報交換は効率的な研究推進のために必要であり強力で推進してほしい。成果自体も、研究所全体の今後の研究活動方針決定に役立つ。</p>	<p>今後も、分野横断的な研究・情報交換の促進の機能を維持できるように努める。また次期中長期の計画検討にもそれを活かすように取り組む。</p>
	<p>包括的に俯瞰をされているが、政策手段や消費者への視点、ジェンダー、ガバナンス、住民などへの社会正義に関連した内容が手薄である。幅広い参加や社会正義も同等に重要とされる。さらに、自然由来の解決法への言及も弱い。NbS の指標となるデータを、自治体や研究者、市民など幅広い人たちがアクセスし活用可能であるように、わかりやすく整備していく必要がある。</p>	<p>研究俯瞰をふまえた手薄な課題について、具体的なご指摘を頂きありがたい。全てを国環研のみでカバーすることは難しいことから、所外との連携の可能性なども含め、今後の研究取組の検討に際して参考にさせていただきたい。また、データの外部からのアクセスについては、環境情報部や気候変動適応センター等による既存の取組みもふまえつつ、全所的な課題として認識している。</p>

## 気候危機対応研究イニシアティブ

委員会の主要意見		主要意見に対する国環研の考え方
現状について	<p>○研究課題間の関係の分析は、あまり効果がよくわからない。むしろ、社会への発信の場を多くもち、その場において様々な課題を登場させて連携させながら発信するというのが、発信を受ける側にも課題間連携をする側にも、効率よいのではないか。</p> <p>○ステークホルダーへのヒアリングによる情報交換も重要な活動と思う。</p>	<p>○外部資金研究課題の俯瞰図については、その意義や効果を確認しながら、取組の継続の検討や改良を進めたい。</p> <p>○ステークホルダーへのヒアリングについては、連携推進部が主導して開催した会合にて行われており、本イニシアティブの活動にも反映していきたい。</p>
の評価・質問など	<p>気候変動に関する国環研で取り上げられていない課題等を発見して取り組む一方、国環研だけですべての課題を扱う必要はなく、ある程度自身の得意分野を明確にしつつ、それ以外の分野の研究に関する考え方について整理することも重要。</p>	<p>国環研で取り組んでいない課題については、昨年度にテキストマイニングツールを用いて、国環研の中長期計画文書と、IPCC、IPBES（生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム）、IRP(世界資源アウトルック)それぞれに出てくるキーワードを抽出し比較することでその同定を行った。それらについては外部機関との連携等の扱いを検討していきたい。</p>
今後への期待など	<p>気候変動対策として、緩和と適応を統合して検討することがこのイニシアティブの重要な役割と考える。主導的な役割を果たして、提言の方向性を示していただきたい。また金融界に関して研究者に何が求められるか、でなく、研究者がリードできないか。</p> <p>気候変動に限らず、重要な連携活動を担う活動である。今後、生物多様性、水資源、ビジネス等様々な分野で類似の活動が必要となる可能性もある。研究の連携にはそのようなプロフェSSIONALが育成できる環境づくりが必要かもしれない。</p> <p>この活動を継続されること、さらにはそれを外部も巻き込みながら（例えば、学会等との連携）進めていただきたい。ただ、一方で、これらに対応されている研究者は、貴重な研究の時間を割いており、良いバランスで進めていただきたい。</p>	<p>緩和と適応のシナリオにおける統合については、民間企業と共同で脱炭素プログラム、適応プログラムにて推進される予定である。金融界との対話に関しては、国立研究機関の研究者の役割について議論する場を持ちたい。</p> <p>「研究連携のプロ」については、その要否やあり方について、本イニシアティブに限らず所全体レベルでの議論が必要と考える。その際には本イニシアティブでの経験も積極的に反映していくようにしたい。</p> <p>外部連携に関しては、有効に効率的に行うにはどうすべきか、まだ課題が残されている。本イニシアティブにて連携のリストやステークホルダーのコンタクト先のリストを作成したが、その活用方法や目指すべき姿等議論を継続したい。</p>